

やまびこ

BULLETIN OF YAMAGATA UNIVERSITY LIBRARY

No.57 2006.10

[蔵王のお釜(火口湖)]

もくじ

本館所蔵の160年前の中国のカレンダー —『大清道光二十七年歳次丁未時憲書』 人文学部 教授 新宮 学	1
学術情報部がスタートしました	3
平成18年度次世代学術コンテンツ基盤構築事業について	4
地域貢献の展開—中央図書館における小中高生との交流—	5
ひろば(図書館からのおしらせ)	6
本学教員著作寄贈図書	7
附属図書館運営委員会名簿	7
附属図書館運営委員会審議事項	7
各館図書委員会審議事項	8
中央図書館後期ガイダンス案内	8
学術情報部(図書館)連絡先	8

本館所蔵の160年前の中国のカレンダー ——『大清道光二十七年歳次丁未時憲書』

人文学部 人間文化学科 教授 新宮 学

本学附属図書館には、100年以上も前の暦(こよみ)が一冊所蔵されている。書名は、『大清道光二十七年歳次丁未時憲書』(不分巻)である。時憲書とは、清朝の欽天監(国立天文台兼気象台)が作製した暦のことである。

表紙の部分には、「欽天監欽遵御製、数理精蘊印造時憲書、頒行天下」と印刷し、第4葉表には、「欽天□□憲書之□」(□は判読困難)という朱印が押してあり、欽天監で印造した時憲書であることがわかる(図版1、2参照)。中国清朝の道光27年は、わが国の和暦では弘化4年、西暦に直せば1847年である。館報『やまびこ』の本号を手にするころには、街では2007年版のカレンダーが出まわり始めているはずであるから、ちょうど160年前のカレンダーというわけである。

その当時、海を隔てた中国ではアヘン戦争が勃発、イギリス艦隊の砲撃に敗れて香港割譲を迫られるなど、植民地化の危険が差し迫っていた。鎖国体制をとる日本にも、オランダやアメリカの船が来航するようになっていた。中国同様の危険をいち早く察知していた佐久間象山が、蘭学を学び洋式野戦砲を造り始めたのは1848年のことである。

さて、この時憲書はわずか24葉からなる線装本で、朱墨二色刷のいわゆる套印本(重ね刷り)である。朱刷部

分はかなり色褪せて、このままでは判読が困難である。都北京や各省の節気・時刻、年神方位の図、各月の大小と日の吉凶・禍福・禁忌、年齢早見表などが、墨刷で記されている。これらの記載がその当時いかなる意味を持っていたかを正確に読み取ることは、いまではかなり難しい。しかし、そこに盛り込まれたさまざまな情報は、当時の人たちの日々の生活を確実に律していた。

そもそも、近代以前の中国では、暦は皇帝から賜わるものであった。中央官僚はもちろん、地方の官僚や都に朝貢した外国の使節にも、暦が一冊ずつ配られた。その配られた数は膨大で、大量に用意する必要があったから、早くも唐代後半には木版刷で印刷されていた。ちなみに、明代の北京の欽天監では一時期50万本以上の暦書を印刷したという、驚くべき史料もあるから、大量出版物の代表であったのは間違いない。とはいえ、暦は年が明ければ棄てられる運命にあったので、後世に残されることは極めて少なかった。書物と印刷の国の中国とはいえ、経書(けいしょ)や史書のような科挙に必須の学問以外の書物は残らないことが多い。

この暦をここで紹介したのは、ちょっと珍しいという理由からだけではない。道光27年の時憲書は、わが国の国会図書館をはじめ東京大学、京都大学などの主要

な図書館にも所蔵されておらず、貴重書としての価値を有するからである。また管見の限りでは、中国や台湾の国家図書館の漢籍善本目録類を引いても、その所蔵が確認されず、まさに「天下の孤本」である可能性も高い。国内で時憲書のコレクションを最も数多く所蔵しているのは、東京にある国会図書館である。しかし道光25年から30年までほぼそろっているなかで、道光27年のみが欠けており、おそらく国会図書館で欠けている一冊が、何らかの経緯で本学附属図書館に収蔵されるようになったものと推定される。

さて、このような貴重書が本館に所蔵された経緯であるが、現在のところまだ詳しい調べがつかない。封面には、米沢出身の郷土史家伊佐早謙(いさはやけん)の蔵書印が押してあり、ある時期、彼が収蔵していたことが判明する。その裏に押された受入印から、昭和30年11月18日に附属図書館の教育学部分館で購入したことがわかる。図書館に残る古い帳簿で調べてみると、購入価格が当時の価格で30円、納入した業者名は廣瀬速水とある。この時期に、約700種の和漢籍とともに一括購入されているが、これらの書物が旧教育学部分館に収蔵された経緯についてはよくわからない。

この貴重な時憲書は受入作業が済んでからも、正確な書誌データが作成されることはなかった。全くの偶

然であるが、本書が附属図書館に受入られた昭和30年(1955)は、私の生まれた年である。私が生きてきた歳月と同じ期間、蔵書カードも作成されずに書庫の片隅に放置されていたことになる。目に留まったのも、なにかの縁と言えよう。本館には、こうした状況に置かれた和書と漢籍が、ざっと見て3000タイトルほどあり、そのうち漢籍は約500タイトルと推定される。

半世紀もの間ひっそりと書庫にしまわれていたこうした書物を深い眠りから覚まし、新たに登録するための基礎作業をしているのが、人文学部研究支援プロジェクトの一つに採択された「山形大学附属図書館所蔵未整理漢籍の調査研究」である。このプロジェクトは、昨年人文学部の中国学関係の教員5名と図書館職員1名で発足した。5年を目途に調査する計画を立て、昨年度には約100タイトルを調査整理して、経・史・子・集部の四部分類にもとづく書誌データを作成した。この調査の過程で、見つかった貴重書の一つが今回紹介した時憲書である。ほかにも、メンバーの調査で、いわゆる明版(中国の明朝時代1368-1644年に出版された木版印刷)の漢籍がすでに10種ほど見つまっている。未整理漢籍の調査がすべて終わる予定の数年後には、本館の漢籍蔵書の価値が一層高まることが期待される。

(あらみや まなぶ)

【図版1】大清道光二十七年時憲書封面と伊佐早謙の蔵書印



【図版2】大清道光二十七年歲次丁未時憲書第四葉表の書影



学術情報部がスタートしました

本年7月1日から、附属図書館事務部は、総務部情報化推進室、学術情報基盤センター事務部と統合して、新たに学術情報部としてスタートしました。これは、山形大学事務機構改革の一環として行われました。

YUユニット制を採用した山形大学の事務機構改革は、次のような特徴があります。

1) 学生支援、研究支援の充実

学務部の拡充、企画部の新設（研究支援と社会連携の分離）、附属図書館事務部の改組による学術情報部の新設（情報系組織の集中化）。

2) 組織構造のフラット化

従来は、①部長・次長、②課長・事務長、③室長、④補佐、⑤専門員・係長、⑥主任、⑦係員、と7階層であったのを、①部長、②ユニット長（課長、室長）、③チームリーダー（専門役、係長）、④チーム員（主任、係員）の4階層にフラット化。

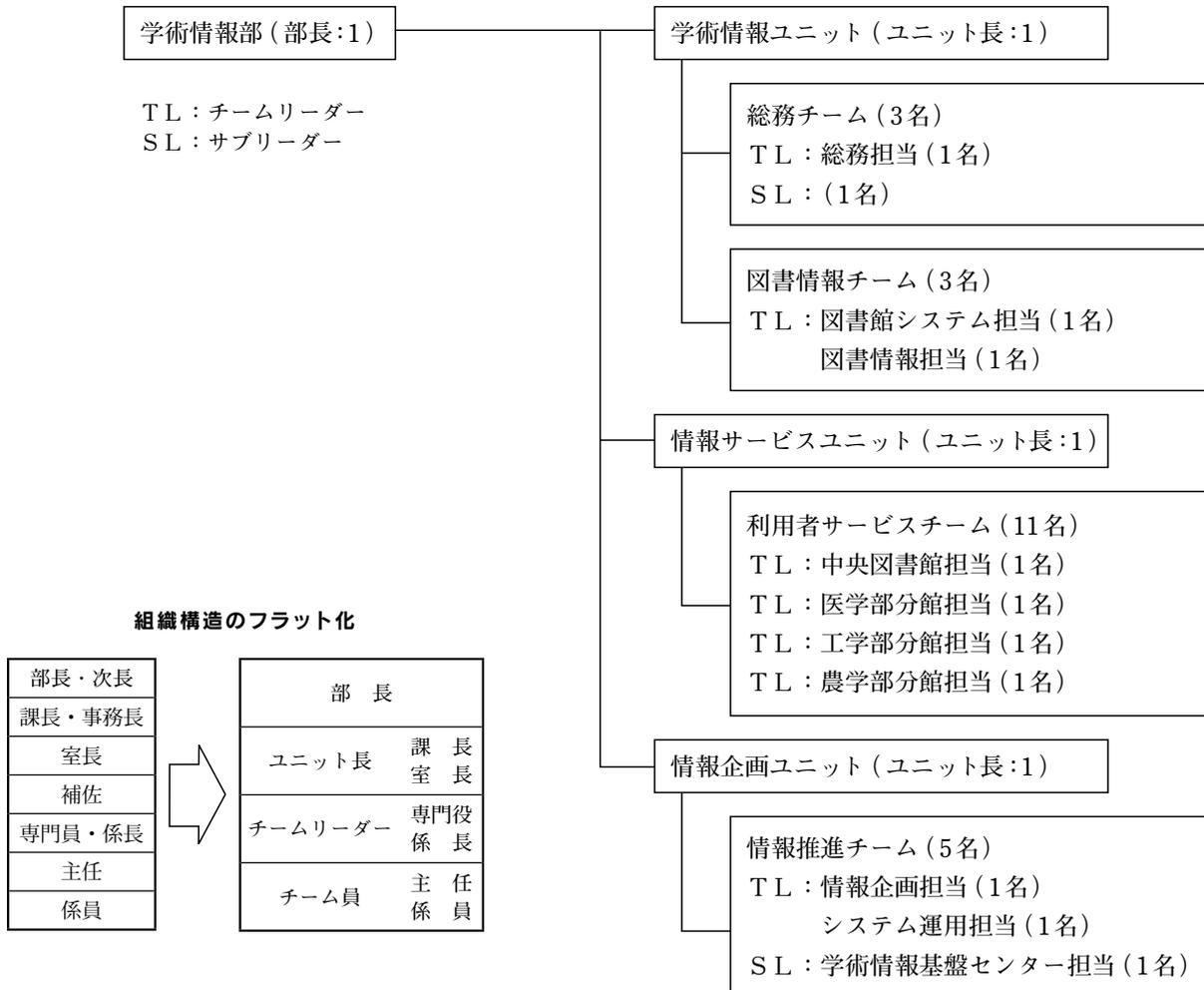
3) 組織の専門化

部直属の「室」の設置により、課・室等の組織としての専門的取り組みを強化。

4) 組織の柔軟性

チームリーダー層以下の職員は、部単位で配属され、部内での配置は担当理事・部長の判断に委ねられる。業務の繁閑に応じて、従来の課・室・係等の壁を越えて柔軟に対応し、業務の必要性に応じて、部内を柔軟に再編成できる。

新しく発足した学術情報部も、下図のような構成になっていますが、単にこれまでの部の名称が変わったということではなく、①図書館、事務情報、学術情報基盤センターの3者間での業務の融合、交流、②中央図書館と分館の間での業務の融合、交流、③各ユニット内での業務の融合、業務体制の柔軟化、管理職の実務へのリーダーシップ強化、を目指しています。



平成18年度次世代学術コンテンツ基盤構築事業について

国立情報学研究所(NII)では、我が国の大学等や研究機関が有しているコンピュータ等の設備、基盤的ソフトウェア、コンテンツ及びデータベース、人材、研究グループそのものを超高速ネットワークの上で共有する「最先端学術情報基盤(CSI: Cyber Science Infrastructure)」の実現に向けて取り組んでいます。この取組みの内容は、1) NIIと大学情報基盤センター等との連携による次世代学術情報ネットワーク、電子認証基盤、グリッド環境の整備 2) NIIと大学図書館等との連携による次世代学術コンテンツ基盤整備 3) 未来価値創発型の全国情報学研究連合です。

NIIはこのため、大学等学術研究機関との連携及び支援を目的とする委託事業を行っており、その中に機関リポジトリの構築・運用に係る事業を大学に委託する次世代学術コンテンツ基盤構築事業が含まれています。

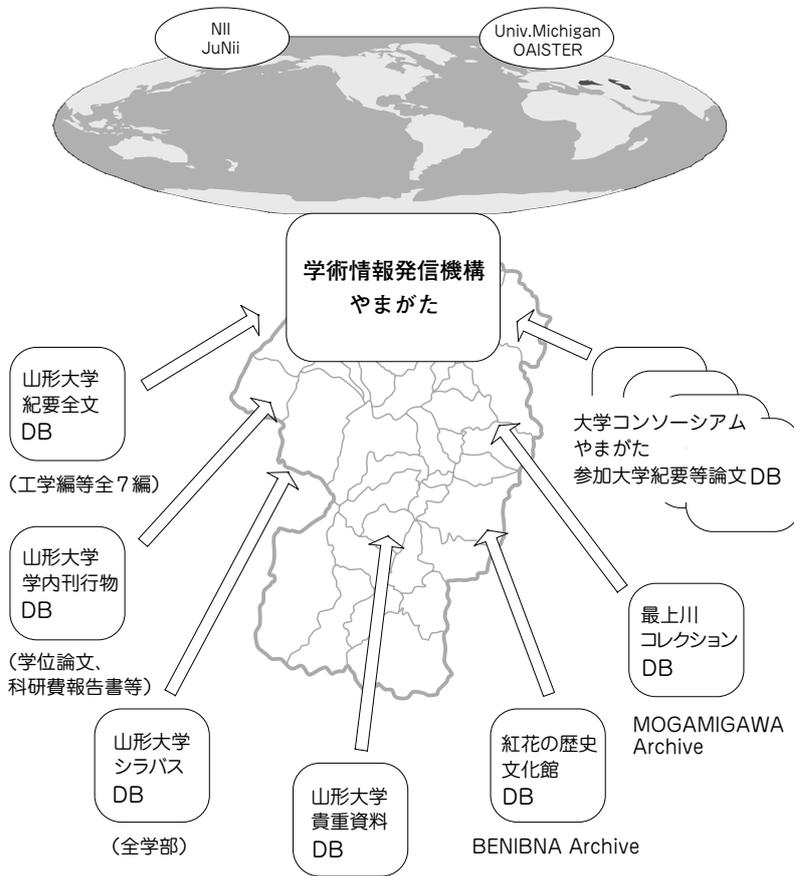
機関リポジトリ(IR: Institutional Repository)は、「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス(クリフォード・リンチ[2003])」

であり、全世界で700を越える機関リポジトリが、日本でも大学図書館を中心に20近くの機関リポジトリが設置されています。機関リポジトリは、大学の学術的活動とその成果である図書・雑誌、学術論文・学位論文・紀要論文、研究プロジェクト報告書

等を外部に提供し、共有することによって大学の存在感を高めるとともに、研究基盤となる学術成果の確保・保存・利用に役立つものです。

この度、山形大学附属図書館は、平成18年度次世代学術コンテンツ基盤構築事業に応募し、事業の委託が認められました。山形大学附属図書館で構築・運用を行う「学術情報発信機構やまがた」の概念図を以下に示します。このリポジトリは、山形大学のみならず、山形地区の大学(大学コンソーシアムやまがたの参加機関)で生産される学術情報を一元的に蓄積し、山形の地から全世界へ直接情報発信を行います。

そのためフェーズ1: 山形大学内で生産される学術情報資源の搭載、フェーズ2: 山形地区をテーマとした学内外学術情報資源の搭載、フェーズ3: 山形地区全域で生産される学術情報資源の搭載の3つのフェーズで実現を図ります。このような大学コンソーシアムと連携した機関リポジトリの構築事業は国内では唯一の試みです。機関リポジトリの構築に当たっては、著者(作



「学術情報発信機構やまがた」の概念図

成者)の了解の下に、学術的なコンテンツをいかに多く収集するかが鍵となります。「学術情報発信機構やまがた」の構築・運用についての御理解とコンテンツの収集への御協力をこの場を借りてお願いいたします。

地域貢献の展開－中央図書館における小中高生との交流－

山形大学附属図書館の中期目標・計画に、社会との連携に関連して、図書館施設の公開と地域サービスの充実が掲げられており、具体的措置として他大学学生を含む一般市民への図書館利用講習会などを開催することが努力目標として掲げられています。

こうした方針を踏まえて、中央図書館では学外者の来館や利用を促進するための方策として、本学所蔵貴重資料の公開をはじめとして、日曜・祝日の開館開始、学外利用者の貸出冊数・期間の拡大を行ってまいりました。

本稿では、このような一般的な地域貢献策とは観点を換え、県内の小学生・中学生・高校生との交流及びガイダンスなどの具体的なサービス事例を通して、あらたな地域貢献のあり方に焦点を当てたいと思います。

1. 小学生との交流

(1) 山形市立滝山小学校

小学校の「総合的な学習の時間」の活動との関わりをご紹介します。

平成17年12月某日、山形市立滝山小6年生の総合学習の一環として、児童数人が来館し資料を調べていきました。その後担当教諭から、『活動の成果を個人新聞のかたちでまとめるなどして、翌年1月の校内学習発表会で発表した。』と聞き、個人新聞などを当館の紅花ポータル「紅花の歴史文化館」に掲載させていただき、校長先生の快諾を得ました。さらに、このことがきっかけとなり、県下の小中学校の紅花学習事例集を作って「紅花の歴史文化館」に掲載しました。

(2) 大蔵村の小学生

《史料に見入る大蔵村の小学生》

山形大学の地域貢献事業における小学生との関わりをご紹介します。



平成18年2月に、山形大学と最上広域圏8市町村とが連携して教育・研究・社会貢献活動を展開する、「エリアキャンパスものがみ」の活動の一環として、大蔵村の大蔵小・赤松小・肘折小の児童、同村教育委員会関係者など計18名が中央図書館を訪れました。図書館職員が、図書館の概要、貴重資料や「紅花の歴史文化館」の説明を行ったのち、児童全員に入館カードを渡しました。

2. 中学生との交流

図書館の資料を使って、館内で授業を行った例をご紹介します。

平成18年9月初旬、山形大学附属中学校の3学年生徒など計69名が中央図書館を訪れました。選択教科集中履修の数学選択クラスと社会選択クラスの教諭と生徒の

皆さんです。

このうち、数学選択クラスには、山形県和算研究会会長の板垣貞英氏が講師となって、中央図書館が所蔵する江戸・明治期の和算資料を使って授業を行っていただきました。また、社会選択クラスも含め、それぞれの教科テーマに沿ったガイダンスや館内ツアーも行いました。

3. 高校生との交流

日常的な利用を前提としたガイダンス等を実施した最近の例としては、平成18年6月の山形県立楯岡高校の教諭と図書委員(計15名)、同年8月の山形県立山形西高校の教諭と図書委員(計14名)があります。

これら県内各高校との連携を深め、高校生の本学図書館利用を促す取り組みとして、図書委員と日常的に関わりの深い学校司書の方たちに組織的に協力していただくことを考えました。

その組織とは、「山形県高等学校教育研究会図書館部会(以下、部会という。)村山支部」です。早速、5月の部会村山支部総会に諮っていただいたところ、満場一致で賛同していただきました。

8月7日、田川支部のメンバーも含めた計31名の方にお集まりいただき、講演会、ガイダンス、館内ツアーを実施しました。

なお、これにさきがけて8月3日に飽海支部の学校司書の方7名が、飽海支部司書専門部会研修会の一環として中央図書館に来られましたので、同様のガイダンスなどを実施しました。

こうした活動の成果は今後待つこととして、立場は異なっても大学と高校の司書同士の人的ネットワークを通じて、地元高校と密着した利用サービスが展開できるように努めていきたいと考えています。

4. 最後に

地域貢献については、利用規則など制度面の見直しも必要ですが、学外利用者の来館を待つのではなく、こちらから積極的に働きかけることも大切です。

本稿では、大学図書館の資料や施設を地域の初等・中等教育に活用するための、ささやかな試みについてご紹介しましたが、さらに、若年層も含めた学外利用者への接遇、ガイダンス、館内ツアーのあり方についても、研究しノウハウを蓄積していく必要があると思います。

なお、直接の来館利用のみならず、図書館ホームページを通しての情報発信も強力に着実に推し進めていかなければなりません。本学「機関リポジトリ」の推進と一体に考えるべきであることはいうまでもありません。

以上、地域に根ざす図書館を具現化するための対策例として参考にしていただければ幸いです。



より新しいニュースは、ホームページを!
<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/>

中央図書館 ☎023 (628) 4912

● 雨宮 透 教授からブロンズ像をいただきました

山形大学地域教育文化学部文化創造学科 教授
雨宮 透 先生製作の等身
大着衣立像「漣(レン)・96」
が山形大学に寄贈され、
雨宮先生の強いご希望も
あって図書館玄関ホール
に設置されることになり
ました。

9月29日雨宮先生を始め
仙道富士郎学長等関係者
が列席し、除幕式が行わ
れました。

「漣(レン)・96」
1996年 165×49×50 cm
第60回新制作展
(東京都美術館)
出品作品



医学部分館 ☎023 (628) 5054

● 1階閲覧室でLANに接続できるようになりました

1階閲覧室に学生用LANを敷設しました。利用できるのは、飯田キャンパスの医学科、看護学科、大学院の学生の方です。「山形大学飯田キャンパス学生用LAN接続に関する申し合わせ」により申請すれば利用できるようになります。使用規則を遵守してご利用ください。詳細は学術情報基盤センター飯田分室にお問い合わせください。

● 平日の開館時刻を15分はやくしました

7月3日より平日の開館時刻を8時45分にしました。夏季休業中に早くから利用する方が見えて、わずか15分でも実施してよかったですと感じています。

工学部分館 ☎0238 (26) 3019

● 「放送大学山形学習センターコーナー」を設置しました

3階ニューメディア室(2)に「放送大学山形学習センターコーナー」を設け、米沢・南陽など置賜地域で受講の多い科目を中心に、ビデオテープ・カセットテープ・テキストを配置し、貸出を行います。貸出サービスを受けられるのは山形大学学生・教職員及び放送大学の学生に限ります。貸出期間は1週間・2巻以内で、テキスト(印刷教材)の貸出はできません。館内利用はどなたでも可能です。また、室内にリクエストボックスを設置しておりますので、ご希望の科目がありましたらリクエストをしてください。たくさんの方のご利用をお待ちしております。

● 「留学生図書コーナー」を新設しました

1階ゲートを入ってすぐ右側の書架に「留学生図書コーナー」を新設し、日本語学習資料を中心に留学生向けの図書を配架しております。今後とも充実させていく予定です。

● 蔵書検索専用端末をリニューアルしました

故障等で利用できなくなった検索コーナーのパソコン4台を新機種に更新しましたので、ご利用ください。

● 米沢工業会正会員の方に文献複写の無料サービスを実施中です

工学部分館所蔵の資料に限ってのサービスになります。詳細は工学部分館ホームページ(<http://yzlib.yz.yamagata-u.ac.jp>)をご覧ください。

● 玄関前に設置していた喫煙用灰皿を撤去しました

受動喫煙防止ならびに環境整備のため、灰皿を撤去しました。図書館周辺での喫煙を禁止します。ご協力とご理解のほどよろしくお願いします。

農学部分館 ☎0235 (28) 2810

● 「留学生コーナー」を設けました

1階閲覧室の一角に「留学生コーナー」を設置し、順次留学生が利用できる図書を揃えていくこととしました。

● 雑誌架を増設しました

利用者の便を図るため、1階閲覧室及び2階ロビーに新着雑誌配架用書架を増設しました。

本学教員著作寄贈図書

— 2006.4～2006.9 —

このたび本学の先生方から、以下の著書を寄贈していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

【中央図書館】

尤 銘煌 (留学生センター)

「話そう日本語 第2版」前程出版社, 2003 (810.7//ハナソ)

「広告学日本&日本文化」致良出版社, 2000(810.7//コウコ)

石島 庸男 (理事(学生担当))

「山形県近代教育小史」山形県教育史研究会, 2006 (372.

125//ヤマガ)

【農学部分館】

楠本 雅弘 (農学部)

「複式簿記を使いこなす: 農家の資金管理の考え方と実際」農山漁村文化協会, 1998 (611.79//フクシ)

「地域の多様な条件を生かす集落営農: つくり方・運営・経営管理の実際」農山漁村文化協会, 2006 (611.76//チイキ)

永田 英治 (農学部・非常勤講師)

「日本理科教材史: 理科教材の誕生・普及・消滅・復活, その研究の方法と基礎的ないくつかの教材についての教材史研究の成果」東京法令出版, 1994 (375.42//ニホン)

附属図書館運営委員会名簿

平成18年10月1日現在 (◎は委員長)

所 属	氏 名	任 期
◎附 属 図 書 館 長	芦 立 一 郎	17.9.1 ~ 19.8.31
医 学 部 分 館 長	加 藤 宏 司	17.9.1 ~ 19.3.31
工 学 部 分 館 長	横 山 晶 一	17.9.1 ~ 19.8.31
農 学 部 分 館 長	貫 名 学	17.9.1 ~ 19.3.31
人 文 学 部 教 授	大 槻 芳 孝	17.4.1 ~ 19.3.31
人 文 学 部 教 授	新 宮 学	18.4.1 ~ 20.3.31
地域教育文化学部教授	河 野 芳 春	18.4.1 ~ 20.3.31
地域教育文化学部教授	加 藤 良 一	18.4.1 ~ 20.3.31
理 学 部 教 授	坂 本 政 臣	17.4.1 ~ 19.3.31
理 学 部 教 授	梅 林 豊 治	18.4.1 ~ 20.3.31
医 学 部 教 授	片 野 由 美	18.9.19 ~ 20.3.31
工 学 部 助 教 授	仁 科 辰 夫	17.4.1 ~ 19.3.31
農 学 部 助 教 授	村 山 哲 也	18.4.1 ~ 20.3.31
学術情報基盤センター教授	澤 田 秀 樹	18.4.1 ~ 20.3.31
留学生センター助教授	尤 銘 煌	18.4.1 ~ 20.3.31
学 務 部 長	日 野 静 雄	16.4.1 ~
学 術 情 報 部 長	友 光 健 二	18.7.1 ~

平成18年度附属図書館運営委員会審議事項

第1回 (平成18年7月7日開催)

- 1 平成18年度附属図書館予算配分要項(案)並びに中央図書館、3分館への予算配分(案)について
- 2 平成18年度事業計画について
- 3 2007年度の電子ジャーナルの経費負担について

第3回 (平成18年8月25日開催)

- 1 2007年度の電子ジャーナルの整備について

第2回 (平成18年8月8日開催)

- 1 附属図書館運営委員会と出版委員会の統合について
- 2 平成18年度の紀要出版について

第4回 (平成18年9月25日開催)

- 1 2007年度の電子ジャーナルの整備方法について

平成18年度各館図書委員会審議事項

■中央図書館図書委員会

第1回 (平成18年7月24日開催)

- 1 平成18年度中央図書館図書購入予算について
- 2 平成18年度学生用図書(学内措置分)の選定について
- 3 人文・社会科学系図書の選定について
- 4 中央図書館利用細則の一部改正について

■医学部分館図書委員会

第1回 (平成18年5月29日開催)

- 1 平成18年度附属図書館事業計画について
- 2 平成18年度医学部予算について
- 3 学生用図書の充実について
- 4 開館時間の拡大について
- 5 利用環境整備について

第2回 (平成18年6月7日・持ち回り)

- 1 Science Directのコンテンツの追加について

第3回 (平成18年8月8日・持ち回り)

- 1 2007年版外国雑誌の予約について
- 2 メディカルオンラインライブラリーのトライアル利用について

■工学部分館図書委員会

第1回 (平成18年7月26日開催)

- 1 学生用図書(学内措置分)の配分と選書方法について
- 2 平成18年度工学部分館事業計画について

■農学部分館図書委員会

第1回 (平成18年9月19日開催)

- 1 学生用図書、留学生用図書、電子的情報資料及び学生用雑誌の選定(案)について
- 2 山形大学附属図書館農学部分館図書委員会規則の一部改正(案)について
- 3 平成18年度農学部分館予算(案)について

中央図書館ガイダンス(平成18年度・後期)のお知らせ

Web of Science 講習会

- 日時: 小白川地区: 10月18日(水) 14:40~16:10 図書館会議室 米沢地区: 10月19日(木) 15:00~16:30 学術マルチメディア室
飯田地区: 10月18日(水) 17:30~19:00 視聴覚教室 鶴岡地区: 10月19日(木) 13:30~15:00 情報処理教室
- 内容: 世界でもっとも利用されている文献データベースのひとつであり、大学全体として導入している「Web of Science」の講習会です。未経験者のかたも、ハードユーザーのかたも、基本からアップトゥデートな情報まで、専門の講師がていねいにレクチャーいたしますので、どうぞお気軽にご参加下さい。
- その他: ホームページ(<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/wos/app.html>)からあらかじめ申込みをして下さい。当日飛び込みでの参加も歓迎いたします。

中央図書館ガイダンス実施報告(平成18年4月~8月)

開催時期・場所	内 容
4月 図書館会議室	新入生のための図書館ガイダンス 新入生を対象として、これからの4年間、おまな自習の場となる大学図書館の使い方を説明ののち、館内めぐりの小旅行を行いました。また、普段入室禁止の場所にもご案内し参加者から好評を得ました。(開催回数10回、参加者72名)
4月 図書館会議室	新任教員のための図書館案内 本学に新たに赴任された先生を対象に図書館の各種サービスの使い方などをご説明しました。(開催回数6回、参加者8名)
7月 図書館会議室	卒論準備のための文献探索セミナー(前期) これから卒論を執筆する学生を対象として、雑誌論文などの学術メディアの基本的なりテラシー、文献探索および入手の実際を、講義とパソコン実習により習得するセミナーを開催しました。(開催回数10回、参加者21名)
5~7月 図書館会議室	教員の依頼による図書館ガイダンス 教養セミナー、人文学部人間文化学科、工学部電気電子工学科、工学部物質化学工学科の担当の先生からご依頼をいただき、依頼内容に基づいた図書館ガイダンスを授業時間の1コマを使って実施しました。(開催回数7回、参加者330名)
8月 図書館閲覧室	山形大学オープンキャンパス・ライブラリツアー オープンキャンパスに来場いただいた入学希望者や一般市民の皆さまを対象に図書館の概要やデジタルコンテンツについてご説明しながら、館内を散策するライブラリツアーを実施し、好評を得ました。(開催回数1回、参加者72名)

この他にも、図書館では必要に応じ、随時、各種データベースや電子ジャーナルの利用説明会を開催します。また、各先生方からのご要望により、授業の一環としての図書館ガイダンスを、ご希望に応じた内容で実施しています。授業時における図書館ガイダンスを希望される場合は、お早めに担当部署へご相談ください。
担当: 附属図書館利用者サービスチーム (Tel.4914) E-mail:jsagaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

学術情報部 (図書館) 連絡先	◎利用者サービス、文献複写・相互貸借(ILL)情報サービスユニット利用者サービスチーム	□中央図書館(学術情報ユニット)
	○中央図書館(利用) Tel.023-628-4912 Fax.4915	□総務チーム
	〃(レファレンス) Tel.023-628-4914 Fax.4915	中央館資料の契約・受入・管理、紀要出版 Tel.023-628-4904 Fax.4909
	○医学部分館 Tel.023-628-5054 Fax.5059	□図書情報チーム
	○工学部分館 Tel.0238-26-3019 Fax.3408	中央館資料の目録情報作成 Tel.023-628-4908 Fax.4909
○農学部分館 Tel.0235-28-2810 Fax.2815		

原稿を募集中です

図書館利用上の建設的なご意見や、要望などをお寄せください。

023(628)4903 E-mail jkahosa@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

..... 山形大学附属図書館 2006年10月発行(年2回刊)

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12 <http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/>